

加硫促進剤のビンキュアー性について (3)

前回まで^{1,2)}に、チアゾール、スルフェンアミドおよびチウラム系加硫促進剤を用いた場合のSBRのビンキュアー性について紹介した。今回は、ジチオカルバミン酸亜鉛塩について紹介する。

図1に、加硫促進剤配合ゴムを40℃で処理した時のtc(10)の変化率を示した。PZ, EZ, BZのtc(10)は、大きく変化しない。

図2から5にそれぞれの加硫曲線を示した。ZPは、40℃で処理することにより加硫曲線の変化が大きい。

次回、他のジチオカルバミン酸塩系加硫促進剤について紹介する

実験

前回²⁾通り。

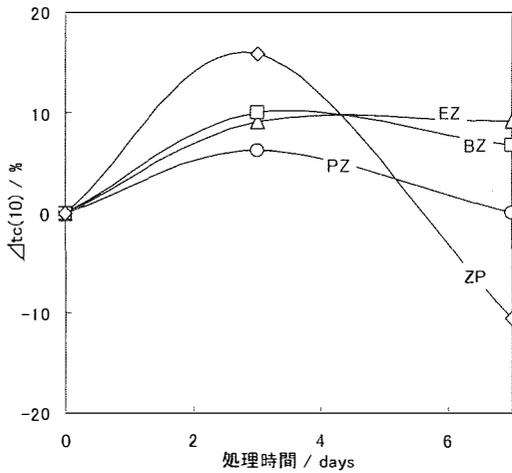


図1 配合ゴムの40℃放置後におけるtc(10)の変化率

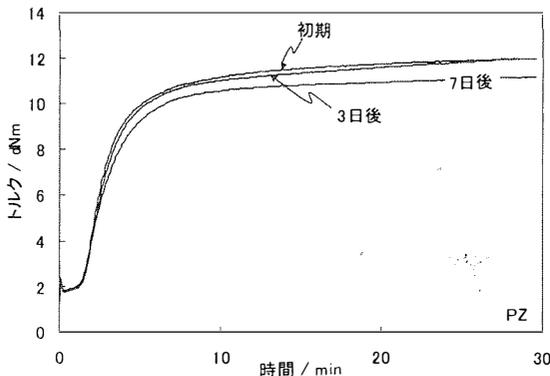


図2 PZ配合ゴムのビンキュアー性

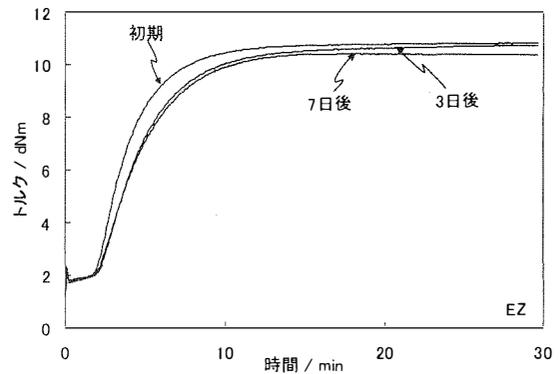


図3 EZ配合ゴムのビンキュアー性

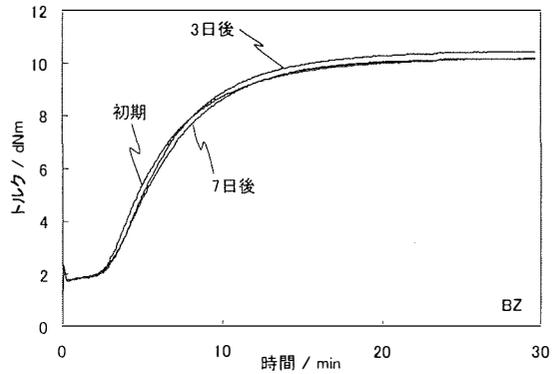


図4 BZ配合ゴムのビンキュアー性

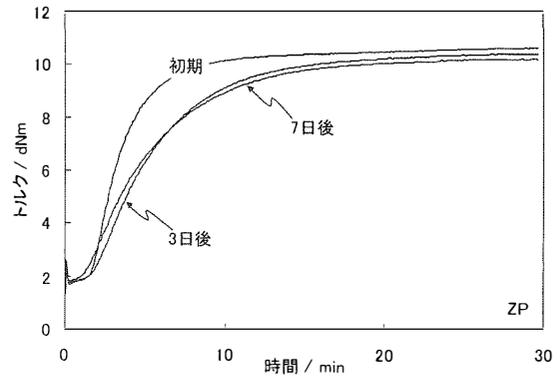


図5 ZP配合ゴムのビンキュアー性

参考文献

- 1) NOC技術ノート No.556 ; 日本ゴム協会誌, 80(4), 会告89 (2007)
- 2) NOC技術ノート No.557 ; 日本ゴム協会誌, 80(5), 会告109 (2007)

ここに記載した内容は、細心の注意を払って行った試験に基づくものでありますが、結果をすべて確実に保証するものではありません。